

看護師養成制度とその周辺

看護専門学校と社会人入学

弘前市・沢田内科医院
弘前市医師会会長・看護専門学校長
澤田美彦

看護専門学校に入学する学生は、社会人経験者が多いのが特徴です。看護師になる最短コースである高校の看護科は中学校からストレートで進学する場合がほとんどです。このコースに社会人が入ることはほぼありません。4年制大学と短期大学は入学試験がありますので、しばらく勉強から遠ざかった社会人が改めて入学試験に備えるのは並大抵ではありません。このような中で、看護専門学校は社会人に対して門戸を広げてきました。

■社会人入学の意義

看護専門学校で社会人が多くなったことには少子化の影響があります。18歳人口が少なくなり、入学者を確保するために社会人を受け入れるようになりました。これは看護専門学校側の都合によるものです。その一方、手に職をつけたい、安定した職業に就きたい、介護の仕事などをして学び直して看護師になりたい、いろいろな理由で看護師になろうとする社会人が増えてきました。

このような状況の中で、弘前市医師会看護専門学校は、社会人を積極的に受け入れる方針をとっています。優秀な学生を確保すること、学び直しのチャンスを与えることなどを目的として、社会人入学枠を設定して募集を開始しました。看護学科が2006年、准看護学科が08年のことでした。

■社会人入学の現状

准看護学科では入学定員の約3割を社会人枠としていますが、現実には入学生に占める社会人の割合は4割を超えています。一般入試でも社会人経験者が入学しているからです。弘前市医師会看護専門学校准看護学科には社会人経験者が71人在籍し、全体に占める割合は47%です。看護学科には43人が在籍し38%を占めています。ただし、看護学科の社会人は准看護学科に社会人として入学した人たちが看護学科に進学した数です。

介護士として仕事をしていて看護師になりたいと方向転換した人、保育士として働いていた人、組織を運営する上でどうしても看護師資格が必要な人、これまで医療や介護とは関係ない仕事をしてきたが看護師になりたいと志願してきた人、安定した収入を得るために看護師になりたい人、動機はさまざま、職業もさまざまです。

社会人は家庭を持つ人も多く、また准看護師資格だけを目的とする人も少なくありません。ですから、引き続いて看護学科に進学して看護師を目指す人の割合は、一般の学生に比べて少し少ないのが現状です。しかし、目的意識を持って入学してくる学生が多く、家族の協力で引き続き看護師を目指して看護学科に進学する学生もたくさんいます。

■出願条件と入試の内容

弘前市医師会看護専門学校に社会人枠に出願するためには、最低2年間の社会人経験が必要です。単に高校を卒業して2年以上というのではなく、職業経験があること、そして継続していることを要求しています。数学や英語などの高校で学習する教科の入学試験はなく、グループ討論や面接で入学者を決めています。

■必要なのは強い意志

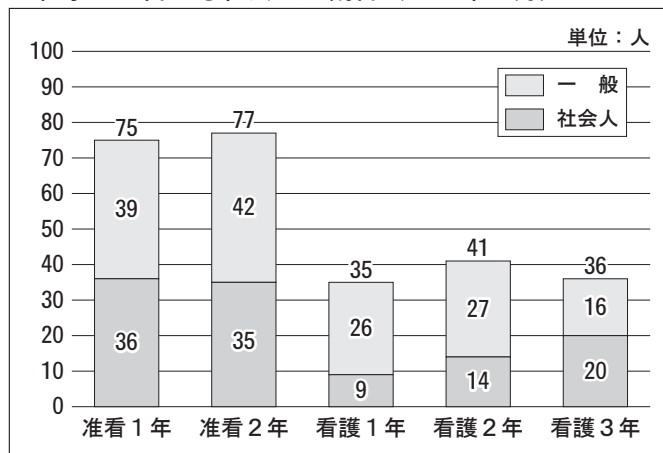
高校を卒業してしばらくたった社会人が英語や数学を勉強して入学試験に備えることは容易なことではありません。それよりも、看護師になろうとする強い意志があれば、看護専門学校での勉強にはついて行けます。むしろ、入学した

後の成績は、社会人の方が優れていることが多いのです。教育の分野では非認知スキルといいますが、何ごともやり抜こうとする力、他の人とやり取りができるコミュニケーション力、そして、自分を律することができる力、この三つがあれば看護専門学校では講義も実習もやり抜くことができます。

18歳人口は減少していますが、本県での看護師不足は続いています。弘前市医師会看護専門学校には引き続き地域に看護師を送り出す役割が求められています。看護師になりたいという強い意志を持っていれば看護専門学校に入学し看護師になることはできます。

(陸奥新報社提供 2020年2月17日掲載)

■在學生に占める社会人の割合 (2020年2月)



医療・福祉制度ナビ — 知っておきたい最新情報 — (132)

看護師養成制度とその周辺

病院以外の看護師の活躍場所

弘前市・沢田内科医院
弘前市医師会会長・看護専門学校長
澤田美彦

「病気や障害があっても住み慣れた自宅で暮らしたい」、「人生の最期を自宅で過ごしたい」と望む人が増えてきました。しかし、「家族だけで医療的ケアや介護ができるだろうか」と心配する人が多いのも現実です。

これらに対応するために、訪問看護制度が整えられ、看護師の活躍の場が増えてきました。また、高齢化社会が進むにつれて生活の場として老人介護施設の存在が重要になり、そこでも看護師の活躍の場が広がってきています。

■訪問看護ステーション

訪問看護とは、看護師などが患者さんの自宅を訪問して、かかりつけ医の指示のもとに、連携して療養上の世話や必要な診療の補助を行うことです。最近では医療機器を使いながらも自宅で暮らせるように療養生活を支援しています。

看護師の仕事場は基本的に病院や診療所ですが、医療保険制度の改革の歴史を見ると、その活躍の場が次第に拡大し、病院以外での社会的な役割が大きくなってきていることが分かります。

1992年の老人保健法の改正で老人訪問看護制度が導入されました。在宅で寝たきり状態となった患者さんをまず医師が訪問診察し、その指示によって看護師が家庭に出向いてケアを行います。そのための訪問看護ステーションは自

宅で療養する高齢者などに看護サービスを提供するシステムです。

従来、看護系職種で独立して開業できるのは助産師だけでしたが、法改正により看護師や保健師にも開業して活躍することが認められました。具体的なサービスの内容は、病状の観察、医療的処置、洗髪や排せつ介助などの看護介護の実施と相談、栄養や食事療法に関する相談、リハビリテーションの実施など多彩です。また、かかりつけ医への連絡、生活環境の調整など、多方面にわたっています。

医療保険制度の改正で訪問看護ステーションは、看護や介護サービスの他に在宅酸素療法や腹膜灌流、中心静脈栄養法かんりゅうなどを行い、在宅医療には必須の役割を果たすようになりました。それに伴って、メンバーも看護師の他、理学療法士、作業療法士など多彩になりました。94年の健康保険法の改正では、要介護の高齢者の他にも在宅の難病患者や末期がん患者に対する訪問看護事業も認められるようになりました。

さらに、2000年に介護保険制度が施行されてからは、高齢者の介護を社会全体で支えるために看護師の存在は欠かせないものになりました。また、経験を積んだ看護師はケアマネジャーの資格を取得し、地域医療の新しい仕組み作りに貢献するようになりました。

■介護施設

高齢化社会が進む現在、高齢者介護の必要性が高くなり、生活の場としての介護施設の重要性が増しています。「介護施設」と言っても、その種類はさまざまあります。最も代表的な特別養護老人ホームをはじめ、介護老人保健施設、介護療養型施設、有料老人ホームなど、どのように内容が違うのかを理解するのは至難の業です。

介護施設で求められる看護師の重要な役割は、①健康で快適な生活を送るための医療行為や投薬管理②緊急時や事故への対応③看取りの援助一などです。老人介護施設では日中は医師がいますが、夜間は医師がいないのが普通です。そのため、夜間に入所者が急に具合が悪くなった時は、看護師が中心となって対応しますので、看護師には的確な判断力や応急処置などのスキルは必須です。また高齢者は、自分のことをうまく表現できないことが多いので、いつもと「何か違う」ということに気を配り、顔色、歩行状態や食欲などから変化に気づくようにしなければ

なりません。

看取りを行う老人ホームでは、看護師は、看取りを生活の延長線上として捉え、自然で安らかな死となるようなケアを提供するスキルも要求されます。

■意外な活躍の場も

病気の早期発見のために市町村や企業では健診事業を行っており、その中で看護師は重要な役割を果たしています。一見「医療」とは関係のなさそうな所にも、看護師の活躍の場があります。例えば、大企業では、事業所内に医務室を設置して従業員の健康管理を行っています。また、保育園によっては看護師が常駐し質の高い保育を提供しているところもあります。

以上のような活躍の場他に、学校や養護施設、あるいは海外での医療支援など、看護師が活躍できる場はたくさんあります。そして、どの現場も看護師不足に悩まされています。

(陸奥新報社提供 2020年4月20日掲載)

■病院・診療所以外の看護師の活躍の場

